

せみた 蟬田遺跡発掘調査説明資料

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

平成 24 年 11 月 11 日

調査要項

遺跡名	蟬田遺跡(遺跡番号 208-151)
所在地	山形県村山市西郷
時代・種別	奈良・平安時代：集落跡 近世：集落跡
起因事業	東北中央自動車道(東根～尾花沢間)
調査依頼者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成 24 年 5 月 22 日から 11 月 30 日まで
調査面積	6,000㎡
調査担当者	専門調査研究員 齋藤主税(現場責任者) 調査研究員 庄司昭一 調査員 吉田満
調査成果	(11 月 11 日現在)
検出遺構	奈良・平安時代：掘立柱建物跡 柱列 河川跡 溝跡 土坑 柱穴 近世～近代：溝跡
出土遺物	土師器 須恵器 灰釉陶器 陶磁器 石製品 木製品 鉄製品 古銭 種子

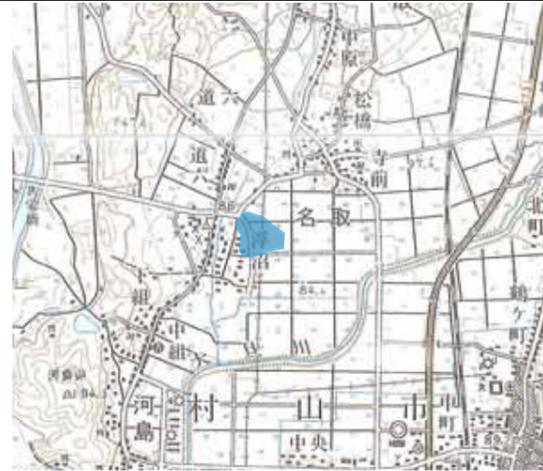


図1 遺跡位置図(S=1:50,000)

1 調査の概要

蟬田遺跡は村山市名取西郷地区に所在します。遺跡の西側には、最上川と蟬田川が南北方向に蛇行しながら流れています。周辺の地形は沖積地で水田が広がっています。また、遺跡南西地区にある浮沼という地名の通り、地盤が沼のように緩い場所に遺跡が立地しています。

今回、東北中央自動車道(東根～尾花沢間)建設工事に伴い、発掘調査を行いました。調査範囲は、県教育委員会による試掘調査により想定され、工事に係る約 6,000㎡(南北 100 m×東西 60 m)について調査を行いました。

調査は重機で遺構が確認できる深さまで表土を除去した後、手作業で土を削り遺構を確認しました。その後、遺構を掘り下げ、遺構の平面や土層断面、遺物の出土状況等を図面や写真に記録しました。



図2 調査区概要図(縮尺任意)

2 発見された遺構と遺物

検出された遺構は、掘立柱建物跡・柱列・河川跡・溝跡・土坑・柱穴等で主に平安時代の遺物が多く出土しています。

掘立柱建物跡は、柱間 2 間×2 間の総柱建物跡 1 棟(SB70)、2 間×2 間の側柱建物跡(SB26・SB84)と想定される 2 棟の計 3 棟見つかります。柱穴の規模・柱列の軸線共に違いがあり、時期差があると想定されます。26 号掘立柱建物跡の柱穴(掘り方)の一部からは白い火山灰が検出されました。これは青森県と秋田県の県境にある十和田火山が噴火した際(西暦 915 年)の火山灰の可能性があり、本建物跡が西暦 915 年以降に建てられたことが想定されます。

柱列は 2 列(SA18・SA83)あります。SA18 は SB26 の西側に隣接し、柱列の軸線もほぼ同じですが、柱穴の平面形・柱間の間隔に若干違いがみられます。SB26 に伴う施設かは不明です。SA83 はさらに西側にあり、柱穴の規模・間隔から推測する限り、柵のような施設が考えられます。

河川跡は東西方向に流れる SG 6 河川跡と南北方向に流れる SG50 河川跡の 2 条確認されました。調査区東側で隣接し、共に調査区外へと続いています。SG 6 河川跡は幅約 5～8 m、深さは最深部で約 2 m の大きな河川跡です。東から西へ流れているようです。SG 6 河川跡の土層断面を観察すると、何度か流路を変えつつ、途中で十和田 a 火山灰と考えられる堆積が確認されました。915 年以降も流れていたことが想定されます。また、砂層からはほぼ完形の土師器・須恵器等の土器と多種の木製品が見つかります。ごく僅かですが、川底から縄文時代の土器・石器も出土しています。SG50 河川跡出土遺物は、SG 6 河川跡に比べ極端に少ないです。

土器は主に土師器の出土量が多く、須恵器は少量です。墨書土器も出土しています。河川跡確認面では灰釉陶器も出土しています。

木製品は、齊串・人形・鳥形等の形代、杢・柄・鋏先・横槌等の農具、横櫛、扇子、下駄、木器、曲物、木錘、(先端が焦げ付いた)棒状・板条木製品等多種見つかりました。その中でも、形代の

出土は県内でも希少で特筆される遺物です。それらは主に水辺で行われる祭祀に用いられる道具です。SG 6 河川跡周辺(調査区西側)で祭祀行為があったことが想定されます。

SG 6 河川跡の年代は、僅かに縄文時代・奈良時代の遺物が含まれていますが、主に平安時代前期頃(9 世紀～10 世紀前葉)と想定されます。

溝跡は、平安時代と近世～近代の 2 時期あります。SD 3 溝跡からまとまった平安時代頃の土師器・須恵器等の土器が見つかりました。SD69 溝跡からは近世の陶磁器と現代のガラス製品等が見つかりました。

土坑は、15 基ほど確認されました。調査区東側に、南北約 3～4 m×東西約 1.5 m の大きさの土坑が 3 つ並んで検出され、検出面に大量の炭・火山灰・土器片などが見つかりました(SK 1・2・9)。炭や焼土が多量に混入する土坑(SK 4)や、須恵器甕が意図的に埋設された可能性がある土坑(SK34)も見つかりました。

3 まとめ

今回の調査では、奈良・平安時代と近世～近代の集落跡が確認されました。主に平安時代頃の遺構・遺物が多く見つかりました。出土遺物はコンテナで約 100 箱です。SG 6 河川跡出土遺物は、その 2/3 以上を占めます。ほぼ完形の土器や多量の木製品が見つかり、その中でも県内では希少な齊串・人形・鳥形等の祭祀遺物(木製品)が特筆されます。また、河川跡も含め多くの遺構から、十和田 a 火山灰と思われる堆積が確認され、詳細な時代を求める資料となります。



写真1 調査区全景(北から)



写真2 SG 6河川跡土層断面(西から)



写真10(上)人形/写真11(下)鳥形



写真12 鋏先

写真13 横槌



写真6 SK9(北西から)



写真3 札状木製品出土状況(SG 6河川跡)



写真4 SK34土坑(東から)



写真5 SB70掘立柱建物跡検出状況(東から)

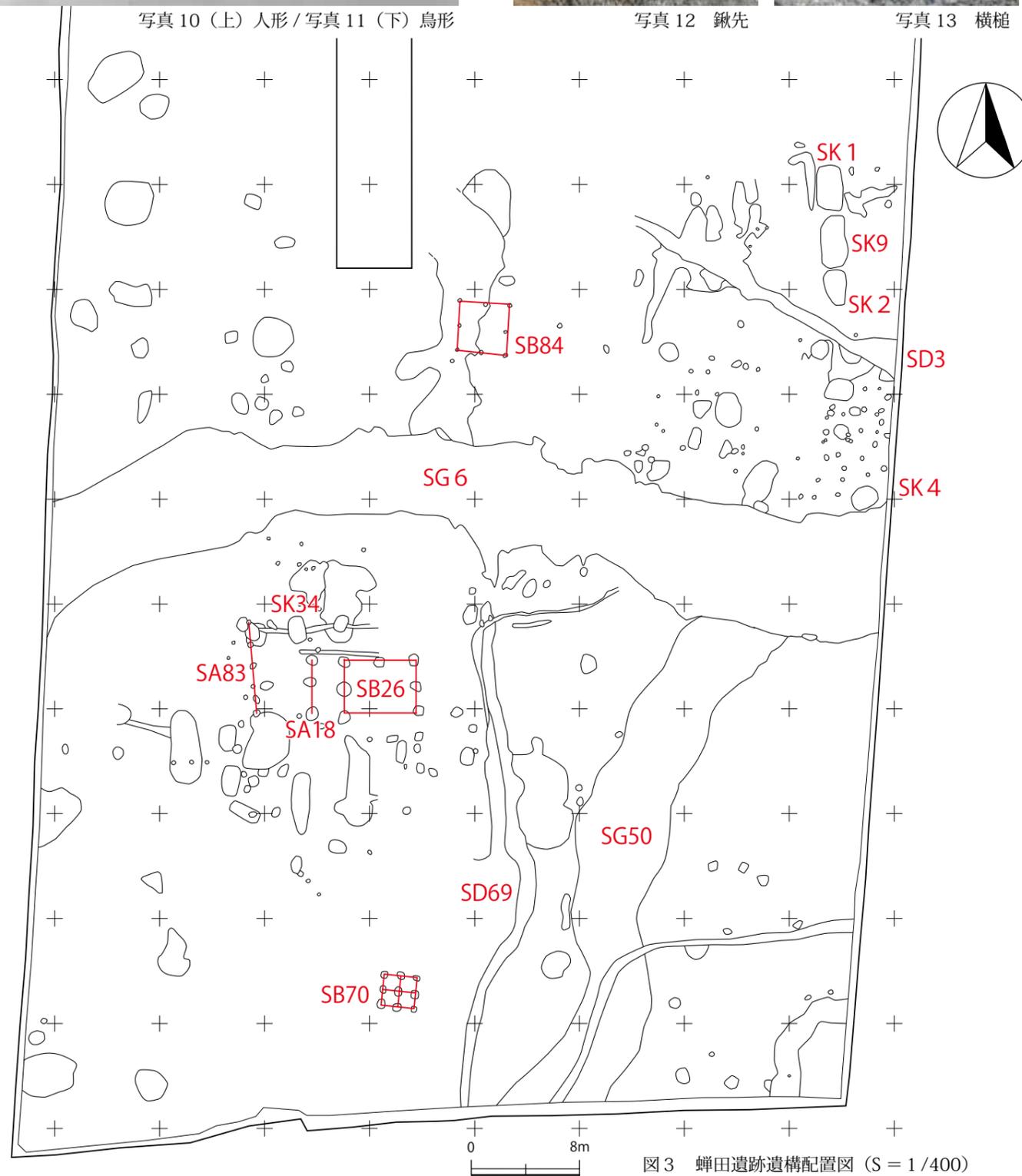


図3 蟬田遺跡遺構配置図(S = 1/400)



写真7 SD 3(南東から)



写真8 調査区東側柱穴群検出状況(北西から)



写真9 SG50土層断面(北東から)